

[033_05/6] 經濟學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4403558>

出版情報：經濟學研究. 33 (5/6), 1968-02-25. 九州大学經濟学会
バージョン：
権利関係：

序

戦後における経済学の発展について特筆すべきことは、科学的経済学ないし批判的経済学の各個別専門領域への浸透ということであろう。その点でわが馬場克三先生は、経営学と会計学の分野においてたぐい稀な巨歩を残してこられたのである。先生の九州大学経済学部における三十有余年におよぶ学究者としての生活は、終始一貫科学的経営学と科学的会計学の体系の確立のためにその情熱を注いだものであった。その取扱われた問題の射程の広さ、分析の用具としての経済学の理論への造詣の深さ、透徹した論理、そしてまたとくに戦後統々と現われた新しい分野への鋭い関心等々、その業績は二百篇におよぼうとする論文、および十冊に近い著述に結晶している。

先生はまたその専門分野で数多くの新進学徒を育成され、いまも育成されつゝある。他方また先生は、学生にたいする教育・講義においても、厳正であり、所定の教科の履行を忽にされない。社会的活動における先生の面目は、二十年近くにおよぶ地方労働委員会での業歴にすべてが象徴されて示されている。

物静かな態度拳措、無駄なく、手ばやい物事の手捌き、そして稀には詩文の道にも巧みさを示されるゆとりを持っておられる。後学の者の仰ぎ、また掬って尽きない滋味を先生のうちに感ずるのである。

われわれ一同先生の還暦を記念し企画したこの論文集は、御退官への餞けともなってしまったが、幸いに先生は福岡の地であって何ら衰えることのないお元気で活躍されている。今後変わることもない御指導御叱正をお願いする次第である。

昭和四十三年七月

九州大学経済学会長

高木幸二郎